

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		平成20年4月施行	
総合計画	大項目	基本目標	06 健全で自立したまちづくり
	中項目	基本施策	01 簡素で効率的な行政運営
	小項目	施策	05 自主財源の確保
	事務事業名	08	後期高齢者医療保険料賦課調査事業
根拠法令・例規等		高齢者の医療の確保に関する法律 備前市後期高齢者医療に関する条例	
問 担当課(室)		税務課	
合 職・氏名		市民税係長 高山 豊彰	
先 電 話		0869-64-1815	
このシート作成に要した時間		5.0 時間	

事業の目的	
対 象 (誰・何に対して)	後期高齢者医療保険の加入者
目 的 (何のために)	高齢者の医療の確保に関する法律及び備前市後期高齢者医療に関する条例に基づき、正確な賦課事務を行うことにより、後期高齢者医療保険制度の安定的な運営を図ります。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	法律や条例に基づく公平で正確な賦課を行うことにより、適正賦課率100%を目指します。

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	後期高齢者医療保険料	後期高齢者医療保険料を賦課する事業	◎

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
決算額	直接事業費	千円	0	694	570
	必要人員人件費	千円	0.25人	1,903	4,911
	事業費計	千円	1,903	6,194	5,481
	国県支出金	千円			
受 益 者 負 担	千円				
繰 入 金 債	千円				
そ の 他 (手 数 料)	千円		21		
一 般 財 源	千円	1,903	6,173	5,481	
受 益 者 負 担 比 率	%	-	-	-	
結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
被保険者数	説明		後期高齢者医療保険の被保険者数		
結果指標量	事業		0	6,019	6,100
対前年比	%		-	-	101.3%
活動コスト	円		-	-	-
単位当たりコスト	円		-	0	0

事業の成果					
成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
適正賦課率	目標値 (A)		100	100	100
	実績値 (B)		100	99.98	到達目標値
	達成率 (B/A)		100.00%	99.98%	100
成果指標設定の考え方・式や説明					
後期高齢者医療保険の加入者のうち、賦課誤りの無かった者の割合 (1-賦課誤りの件数÷賦課件数) × 100					

事務事業の評価		評価区分	
妥当性の評価	市の関与の妥当性の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 <A~E> A
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> B
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 <A~E> A
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

進行年度 (H22年度) の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
			○			
説明	制度が始まって2年が経ちますが、保険料の年金からの天引きや納付書での普通徴収が併用される場合があるなど、加入者には分かり難い部分があると感じます。制度について理解をもらうために広報紙などでのPRをしていきます。本年度は電算システムの更新が行なわれることから、それに合わせて事務処理方法を再検討していきます。					

総合評価		評価区分	妥当性
適正賦課率は高い水準にありますが、加入者にとって分かり難い部分もあり、PRは必要だと考えます。適正賦課率を維持するために事務処理方法を常に見直ししていきます。		<A~E>	
		A	

平成23年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
			○			
取組目標	制度自体の見直しも検討されていることから、動向に注意しながら、適正で効率的な事務処理により適正賦課率100%を目指します。					

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

留意事項: 事業の目的やその数値目標を評価する際は、必ずこの評価シートを参考にしてください。